212901

212901
2
昭和15年9月19日

明治廿七年七月九日

内閣書記官

内閣書記官長

内閣總理大臣

外務大臣

大蔵大臣

海軍大臣

文部大臣

逓信大臣

内務大臣

陸軍大臣

司法大臣

農商務大臣

別冊條約改正案日英全權委員ノ協議ノ結果ニ對シ修正案ノ通青木全權公使ニ訓令ノ件ヲ許可ス

国立国会図書館 伊藤博文関係文書（その1）書類の部 211-1

212901
3
昭和25年9月19日

英國政府修正書入ノ分

通商及航海條約草案

帝國圖書館藏

ヘキコト

右閣議ニ供ス

内閣

伊藤博文文書

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 211-1

通商及航海條約草案

日本國皇帝陛下及ヒ大不列顛愛蘭聯合王國兼印度國皇帝陛下ハ兩國臣民ノ交際ヲ皇張增進シ以テ幸ニ兩國間ニ存在スル所ノ厚誼ヲ維持センヿヲ欲シ而シテ此目的ヲ達センニハ從來兩國間ニ存在スル所ノ條約ヲ改正スルニ如カサルヲ確信シ公正ノ主義ト相互ノ利益ヲ基礎トシ其改正ヲ完了スルヿニ決定シ之カ爲メニ日本國皇帝陛下ハ何某ヲ大不列顛愛蘭聯合王國兼印度皇帝陛下ハ何某ヲ各其全權委員ニ任命セリ因テ各全權委員ハ互ニ其委任狀ヲ示シ其良好妥當ナルヲ認メ以テ左ノ諸條ヲ協議決定セリ

第一條

兩締盟國ノ一方ノ臣民ハ他ノ一方ノ版圖內(英文案中此譯字ニ「テリトリース」「國土」ノ語ヲ用ヒタルトコロヲ總テ「ドミニヨンス、エンド、ポズエスシヨンス」「領地及所屬地」ニ改ムルコトヲ要求セリ然ルニ「版圖內」ノ語ハ管轄彊域一切ヲ包含ス)何ノ所ニ到リ、旅行シ或ハ居住スルモ全ク隨意タルヘク而シテ其身体及ヒ財產ニ對シテハ完全ナル保護ヲ享受スヘシ該臣民ハ其權利ヲ伸張シ及ヒ防護センカ爲メ自由ニ且ツ容易ニ裁判所ニ訴出ツルヿヲ得ヘク又該裁判所ニ於テ其權利ヲ伸張シ及ヒ防護スルニ就キ內國臣民ト同樣ニ代言人辨護人及ヒ代人ヲ撰擇シ且ツ使用スルヿヲ得ヘク而シテ右ノ外司法取扱ニ關スル各般ノ事項ニ關シテ內國臣民若クハ最惠國臣民或ハ人民ノ享有スル總テノ權利及ヒ特典ヲ享有スヘシ

居住權、旅行權及ヒ各種動產ノ所有、遺囑又ハ其他ノ方法ニ因ル所ノ動產ノ相續幷ニ合法

国立国会図書館　伊藤博文関係文書(その1)書類の部 211-1

ニ得ルトコロノ各種財産ヲ如何ニ處分スルコトニ關シ兩締盟國ノ一方ノ臣民ハ他ノ一方ノ版圖內ニ在テ內國若クハ最惠國ノ臣民或ハ人民ト同樣ノ特典、自由及ヒ權利ヲ享有シ且ツ此等ノ事項ニ關シテハ內國若クハ最惠國ノ臣民或ハ人民ニ比シテ多額ノ稅金若クハ賦課金ヲ徵收セラルヽヿナカルヘシ

兩締盟國ノ一方ノ臣民ハ他ノ一方ノ版圖內(前ヲ見ルヘシ)ニ於テ良心ニ關シ完全ナル自由、及ヒ法律、勅令及ヒ規則ニ從テ公私ノ禮拜ヲ行フノ權利、幷ニ其宗教上ノ慣習ニ從ヒ埋葬ノ爲メ設置保存セラルヽ所ノ適當便宜ノ地ニ自國人ヲ埋葬スルノ權利ヲ享有スヘシ」

何等ノ名義ヲ以テスルモ該臣民ヲシテ內國若クハ最惠國ノ臣民或ハ人民ノ現ニ納ムル所若クハ將來納ムヘキ所ニ異ナルカ又ハ之ヨリ多額ノ取立金若クハ租稅ヲ納メシムルヲ得ス

第二條

兩締盟國ノ一方ノ臣民ニシテ他ノ一方ノ版圖內(前ヲ見ルヘシ)ニ居住スルモノハ陸軍、海軍、護國軍、民兵等ニ論ナク總テ强迫兵役ヲ免カレ且ツ其服役ノ代リトシテ取立ル所ノ一切ノ納金ヲ免カレ又一切ノ强募公債及ヒ軍事上ノ賦歛、或ハ捐資ヲ免カルヘシ

此一項ハ別ニ一個條トナスコト其理由ハ喜望峯殖民地及「ナタル」ニテハ其法律上此等ノ免除ヲ與フルコトヲ許サヽルヲ以テ此一項ヲ別ニ一個條トナシ而シテ外交文書ヲ以テ該殖民地ニ對シテハ此條ヲ適用セサルヘキ旨ヲ約スルトキハ該殖民地モ此條約ニ加入スルヿヲ得ヘキカ故ナリ

第三條

兩締盟國ノ間ニハ相互ニ通商及ヒ航海ノ自由アルヘシ

兩締盟國ノ一方ノ臣民ハ他ノ一方ノ版圖內何ノ所ニ於テモ總テ正業ニ屬スル各種ノ生產物、製造品及ヒ貨物ノ卸賣若クハ小賣營業ニ從事スルヲ得ヘシ右營業ニ從事スルニ於テ自身ニ之ヲ爲シ、或ハ代理人ヲ以テシ、又ハ一人ニテ之ヲ爲シ、或ハ外國人若クハ內國臣民ト組合ヲ結ヒテ之ヲ爲スモ隨意タルヘク又住居若クハ商業ノ爲メ家屋、倉庫ヲ所有シ、借受ケ使用シ、且ツ土地ヲ借受クルコトヲ得、但シ內國臣民若クハ最惠國臣民或ハ人民ト同樣其國ノ法律、警察規則及ヒ稅關規則ヲ遵守スルヲ要ス

該臣民ハ他ノ一方ノ版圖內(前ヲ見ルヘシ)ノ各地、諸港及ヒ諸河ニシテ外國通商ノ爲メ現ニ開カレ又ハ將來開カルヘキ場所ヘ船舶及ヒ貨物ヲ以テ自由ニ到ルヲ得且ツ通商及ヒ航海ニ關シテハ政府、官吏、公吏、一私人或ハ會社若クハ何等施設ノ名義ヲ以テスルカ又ハ其利益ノ爲メニ課セラルヽ所ノ稅金或ハ收立金ハ其性質若クハ名稱ノ如何ヲ論セス內國臣民ノ拂フ所ニ異ナルカ或ハ之ヨリ多額ノモノヲ拂フヿナク內國臣民若クハ最惠國臣民或ハ人民ト同一ノ取扱ヲ受クヘキモノトス

但シ本條及ヒ前條ノ規定ハ兩締盟國ノ各方ニ於テ商業、警察及ヒ公安ニ關シ現ニ行ハルル特別ノ法律、勅令及ヒ規則ニシテ外國人一般ニ適用スヘキモノニハ何等ノ影響ヲ及ホスコトナシ

第四三條

兩締盟國ノ一方ノ臣民カ他ノ一方ノ版圖內ニ於テ住居若クハ商業ノ爲メニ供スル家宅、倉庫及ヒ店舗ハ侵スヘカラス

右家宅、店舗ヘハ猥リニ侵入搜索スヘカラス又帳簿、書類或ハ簿記帳ヲ檢査點閱スヘカラス但シ內國臣民ニ對シ法律、勅令及ヒ規則ヲ以テ制定セル條件及ヒ定式ニ據ルトキハ此限ニ在ラス

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 211-1

第五四條

大不列顛國皇帝陛下ノ版圖內ノ生產或ハ製造ニ係ル物品ハ何レノ地ヨリ日本國皇帝陛下ノ版圖內ニ輸入シ又日本國皇帝陛下ノ版圖內ノ生產或ハ製造ニ係ル物品ヲ何レノ地ヨリ大不列顛國皇帝陛下ノ版圖內ニ輸入スルニモ總テ別國ノ生產或ハ製造ニ係ル同種ノ物品ニ課スル所ノ稅ニ異ナルカ或ハ之ヨリ多額ノ稅ヲ課セラルヽヿナカルヘシ又締盟國ノ一方ノ版圖內ヘ別國ノ生產或ハ製造ニ係ル物品ノ輸入ヲ禁止スルニ非サレハ他ノ一方ノ版圖內ノ生產或ハ製造ニ係ル同種ノ物品ヲ何レノ地ヨリ輸入スルヿヲモ禁止スルヿナカルヘシ但シ此末段ノ取極ハ人、畜或ハ農業ニ有用ナル植物ノ安全ヲ保護スルニ必要ナル衛生上及ヒ其他ノ禁止ニハ適用スヘカラサルモノトス

第六五條

兩締盟國ノ一方ノ版圖內ヨリ他ノ一方ノ版圖內ヘ輸出スル一切ノ物品ヘハ他ノ各外國ヘ輸出スル同種物品ニ對シ現ニ賦課シ若クハ將來賦課スヘキ所ニ異ナルカ或ハ之ヨリ多額ノ稅金又ハ雜費ヲ賦課スルコトナカルヘシ又兩締盟國ノ一方ノ版圖內ニ於テ他ノ各外國ニ向ヒ物品ノ輸出ヲ禁止スルニ非サレハ他ノ一方ノ版圖內ヘ同種ノ物品ヲ輸出スルコトヲモ禁止セサルヘシ

第七六條

兩締盟國ノ一方ノ臣民ハ他ノ一方ノ版圖內ニ在リテ內地通關稅ハ免除セラルヘク又倉入、奬勵金及ヒ便益幷ニ稅金拂戻等ノ事項ニ就テハ內國臣民ト均等ノ待遇ヲ享クヘシ

第八七條

日本國皇帝陛下ノ版圖內ノ諸港ヘ日本國ノ船舶ヲ以テ適法ニ現ニ輸入シ若クハ將來輸入セラルヘキ物品ハ亦大不列顛國ノ船舶ヲ以テ同樣ニ之ヲ右諸港ニ輸入スルコトヲ得此場合ニ於テハ日本國船舶カ右樣ノ物品ヲ輸入スルトキ課スヘキ稅金或ハ雜費ノ外何等ノ名義ヲ以テスルモ更ニ別種ノ稅金雜費等ヲ課セサルヘシ又大不列顛國皇帝陛下ノ版圖內ノ諸港ヘ大不列顛國ノ船舶ヲ以テ適法ニ現ニ輸入シ若クハ將來輸入セラルヘキ物品ハ亦日本國ノ船舶ヲ以テ同樣ニ之ヲ右諸港ヘ輸入スルヿヲ得此場合ニ於テハ大不列顛國船舶カ右樣ノ物品ヲ輸入スルトキ課スヘキ稅金或ハ雜費ノ外何等ノ名義ヲ以テスルモ更ニ別種或ハ多額ノ稅金雜費等ヲ課セサルヘシ右相互對等ノ處置ハ右物品ノ直ニ原產地ヨリ到ルト其他ノ場所ヨリ到ルトヲ問ハス必ス之ヲ施スモノトス

輸出ニ關シテモ前項ノ場合ト同樣全ク均等ノ處置ヲ施スヘシ故ニ締盟國ノ一方ヨリ適法ニ現ニ輸出シ若クハ將來輸出セラルヘキ物品ハ其輸出ノ日本國船舶ニ因ルト大不列顛國船舶ニ因ルトニ拘ハラス又其仕向先ノ締盟國ノ一港タルト第三國ノ一港タルトヲ問ハス締盟國ノ版圖內ニ於テハ之ニ課スルニ同一ノ輸出稅ヲ以テシ又之ニ許スニ同一ノ奬勵金並ニ稅金拂戻シノヿヲ以テスヘシ

第九八條

政府、官吏、公吏、一私人、會社若クハ何等施設ノ名義ヲ以テスルカ又ハ其利益ノ爲メニ課セラルヽ所ノ噸稅、港稅、水先案內料、燈臺稅、檢疫費其他之ト同種ノ稅金ハ其性質並ニ名義ノ

212901

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 211-1

如何ニ拘ハラス同一ノ條件ヲ以テ同樣ノ場合ニ於テ內國船舶一般若クハ最惠國船舶ニ課スルモノニ非サレハ兩締盟國ノ一方ハ其版圖內ノ港ニ於テ之ヲ他ノ一方ノ船舶ニ課セサルヘシ此ノ如キ均等ノ取扱ハ兩國ノ船舶カ何レノ地或ハ港ヨリ來リ又何レノ處ニ往クモノタリトモ相互同一タルヘキモノトス

第十九條

兩締盟國ノ一方ノ版圖內ノ海港、海灣、船渠、川河或ハ其他ノ碇泊所ニ於テ船舶ノ繫留又貨物ノ船積、船卸ニ關スル一切ノ事項ニ就キテハ內國船舶ニ許與セサル特典ハ均シク他ノ一方ノ締盟國ノ船舶ニモ許與セサルヘシ但シ本件ニ關シテモ亦兩締盟國ノ目的ハ兩國ノ船舶ニ對シ互ニ均等ノ處置ヲ施スニ在ルモノトス

第二十條

兩締盟國ノ沿海貿易ハ本條約ニ於テ規定スルノ限ニ在ラス各其法律、勅令及ヒ規則ニ從ヒ之ヲ規定スヘキモノトス然レトモ日本ニ於ル大不列顛國臣民又ハ大不列顛國ニ於ル日本國臣民ハ此事項ニ關シテハ各法令ニ因テ他ノ外國臣民或ハ人民ニ現ニ許與シ若クハ將來許與セラルヘキ諸權利ヲ享有スルモノトス

大不列顛國皇帝陛下ノ版圖內ノ二個以上ノ港ヘ仕向ケタル荷物ヲ外國ニ於テ積載シタル日本國船舶及ヒ日本國皇帝陛下ノ版圖內ノ二個以上ノ港ヘ仕向ケタル荷物ヲ外國ニ於テ積載シタル大不列顛國船舶ハ外國貿易ヲ許サレタル仕向港ノ一ニ於テ其積荷ノ一部ヲ陸揚シ而シテ其最初ニ積載シタル荷物ノ剩餘ヲ陸揚スル爲メ他ノ一港若クハ數港

ヘ進航スルコトヲ得ヘシ但シ常ニ兩國ノ法律及ヒ稅關規則ニ從フヘキモノトス

但シ大不列顛國船舶ハ横濱、神戸、兵庫、長崎、箱館間ニ積荷ヲ運搬スルコトヲ得ヘシ

第二十一條

兩締盟國ノ一方ノ軍艦或ハ商船ニシテ暴風又ハ其他ノ危難ニ遭遇シ避難ノ爲メ已ムヲ得ス他ノ一方ノ海港ニ進入スルモノハ內國船舶ノ拂フヘキ稅金ノ外一切ノ稅金ヲ拂フコトナク其港ニ於テ更ニ艤裝ヲ爲シ一切ノ需用品ヲ求メ再ヒ航行スルヲ得ヘシ但シ商船ノ船長ニシテ其費用ヲ辨償スル爲メ其積荷ノ一部ヲ賣却スルヲ要スル場合ニハ該船長ハ其寄港地ノ規則及ヒ稅目ヲ遵守スヘキモノトス

兩締盟國ノ一方ノ軍艦或ハ商船ニシテ他ノ一方ノ沿岸ニ於テ淺瀨ニ乘上ケ或ハ難破シタルトキハ地方官ヨリ其事件ノ生シタル地方ニ在ル所ノ總領事、領事、副領事又ハ領事代理ヘ其旨ヲ通知スヘシ但シ若シ其地方ニ領事官ノ設ナキトキハ最近地方ノ總領事、領事副領事又ハ領事代理ヘ通知スヘシ

日本國皇帝陛下ノ版圖內ノ海上ニテ難破シ若クハ海岸ニ乘上ケタル大不列顛國船舶ノ救助ニ關スル一切ノ手續ハ日本國法律、勅令及ヒ規則ニ從テ之ヲ爲スヘク又互相ノ主義ニ基キ大不列顛國皇帝陛下ノ版圖內ノ海上ニテ難破シ若クハ海岸ニ乘上ケタル日本船舶ニ關スル救助ノ處分ハ大不列顛國法律、勅令及ヒ規則ニ從ヒ之ヲ爲スヘシ右遭難ノ船舶並ニ其器具及ヒ其他一切ノ附屬品及ヒ該船舶ヨリ救上ケタル貨物並ニ商品及ヒ右等ノ諸物件ニシテ海中ニ投棄セラレタルモノ又ハ之ヲ賣却シタルトキハ其收得金並ニ該

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 211-1

遭難船内ニ發見セラレタル一切ノ書類ハ右船舶ノ持主或ハ代理人ヨリ要求スルトキハ之ニ引渡スヘシ右持主或ハ代理人ノ現場ニ在ラサルトキハ内國法律ニ定メタル期限内ニ當該總領事、領事、副領事或ハ領事代理ヨリ請求アレハ之ヲ引渡スヘシ而シテ右領事官、持主或ハ代理人ハ内國船舶難破ノ場合ニ於テ拂フヘキ所ノ物品保存費並ニ難破救助費及ヒ其他ノ費用ノミヲ拂フヘキモノトス

難破船ヨリ救上ケタル貨物及ヒ商品ハ消費ノ爲メニ通關手續ヲ爲スモノニ非サレハ一切ノ關税ヲ免除スヘシ但シ消費ノ爲メニ賣捌ク場合ニハ普通ノ關税ヲ納ムルヲ要スルモノトス

兩締盟國ノ一方ノ臣民ニ屬スル船舶ニシテ他ノ一方ノ版圖内ニ於テ淺瀨ニ乗上ケ或ハ難破シタルトキ其持主、船長若クハ持主代理人不在ノ場合ニハ當該總領事、領事、副領事若クハ領事代理ハ其自國臣民ニ必要ノ救助ヲ與フル爲メ職權上ノ助力ヲ爲スヲ許サルヘキモノトス此規定ハ持主、船長若クハ持主代理人現ニ其場ニ在ル時ト雖モ右樣ノ救助ヲ與フルヲ請求スル場合ニハ亦適用スヘキモノトス

第十三條

本條約ニ於テハ日本ノ國法ニ從ヒ日本國船舶ト見做サルヘキ一切ノ船舶ハ之ヲ日本國船舶ト視認メ又大不列顛國ノ國法ニ從ヒ大不列顛國船舶ト見做サルヘキ一切ノ船舶ハ之ヲ大不列顛國船舶ト見認ムヘシ

第十四條

兩締盟國ノ一方ノ版圖内ニ駐在スル他ノ一方ノ總領事、領事、副領事及ヒ領事代理ハ自國ノ脫船人ヲ取戻スタメ法律ノ許ストコロノ補助ヲ其地方官ヨリ受クヘキモノトス

若シ締盟國ノ一方ニ屬スル商船ノ海員ニシテ他ノ一方ノ版圖内ニ於テ脫船スルモノアルニ際シ右船舶所屬國ノ領事又ハ其代理官ヨリ其逮捕引渡ノ事ヲ地方官ニ依賴スルトキハ該地方官ハ其權力ノ及フ限リ該脫船人ヲ逮捕シ且ツ之ヲ引渡ス爲メ助力ヲ爲スヲ要スルモノトス

但シ右海員カ其各自ノ所屬國ニ於テ脫船シタルトキハ此約款ヲ適用セサルモノトス

第十五條（二葉）

兩締盟國ハ其一方ノ通商及ヒ航海ヲ他ノ一方ニ於テ總テ最惠國ノ基礎ニ置ク主意ヲ有スルニ因リ通商及ヒ航海ニ關スル一切ノ事項ニ於テ現時或ハ將來其一方ヨリ別國ノ政府、船舶、臣民或ハ人民ニ許與スル所ノ一切ノ特典、殊遇若クハ免除ハ他ノ一方ノ政府、船舶、臣民或ハ人民ニモ即時ニ且ツ條件ヲ附セスシテ之ヲ許與スヘキヿヲ兩締盟國ニ於テ約定ス

第十六條（二葉）

兩締盟國ノ一方ハ他ノ一方ノ海港、都府及ヒ其他ノ場所ニ總領事、領事、副領事及ヒ領事代理ヲ置クヿヲ得ヘシ但シ領事官ノ駐在ヲ認許スルニ便宜ナラサル場所ハ例外タルヘシ然レトモ右ノ例外ハ他ノ諸外國ニ對シ之ヲ適用スルニ非サレハ一方ノ締盟國ニ對シテ之ヲ適用スルヲ得サルモノトス

總領事、領事、副領事及ヒ領事代理ハ一切ノ職務ヲ執行スルコトヲ得且ツ其在留國ニ於テ最惠國ノ領事官ニ現ニ許與シ或ハ將來許與セラルヘキ一切ノ特典、特權及ヒ免除ハ凡テ

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 211-1

之ヲ享有スヘキモノトス

第十七條

兩締盟國ノ一方ノ臣民ハ他ノ一方ノ版圖内ニ於テ法律ニ定ムル所ノ手續ヲ履行スルトキハ專賣特許、商標及ヒ意匠ニ關シ内國臣民ト同一ノ保護ヲ受クヘシ

第十八七條

本條約ノ規定ハ法律ノ許ス限リハ大不列顛國皇帝陛下ノ殖民地幷ニ其領地ニ適用スヘシ但シ左ニ列記スルトコロハ此限ニ在ラス

印度

加奈太領地

ニユー、フワウンドランド

喜望峰殖民地

子タル

ニユー、サウスウエールス

ヴヰクトリヤ

クヰンスランド

タスマニヤ

南濠太利

西濠太利

第十九條

大不列顛國政府同政府ニ關スル限ハ左ノ取極ニ同意スヘシ

日本ニ在ル各外國人居留地ハ全ク其呼在ノ日本市區ニ編入シ而シテ日本地方組織ノ一部トナリ當該官廳ハ之ニ關シテ其地方施政上ノ責任義務ヲ悉皆負擔シ又之ト同時ニ右外國人居留地ニ屬スル共有資金若クハ財産アル片ハ之ヲ右日本官廳ニ引渡スヘキモノトス

尤前記外国人居留地ヲ日本帝國約ノ地全部居留地内ニテ現ニ因テ以テ財産ヲ所持スル所ノ現在永代借地券ハ有効ノモノト確認セラルヘシ而シテ右財産ニ對シテハ右借地券ニ載セタル條件ノ外ハ別ニ何等ノ條件ヲモ附セザルヘシ但シ借地券中ニ領事官トアルハ總テ日本當該官吏ヲ以テ之ニ代ユヘキコトヽ知ルヘシ

外國人居留地公共自的ノ為メニ無借料ニテ既ニ貸與シタル各地所ハ永代ニ保存セラルヘシ且ツ該地所ニシテ最初貸與シタルトキノ目的ニ使用セラルヽ限ハ總テノ租税及ヒ徴收金ヲ免スヘシ但シ土地收用權ハ從フヘキモノトス

ニユー、ジーランド

然レトモ東京駐紮大不列顛國皇帝陛下ノ代表者ヨリ本條約批准交換ノ日ヨリ二箇年間ニ本條約ノ規定ヲ前記ノ殖民地若クハ領地ノ孰レヘナリトモ適用スヘキ旨ヲ通知シタルトキハ之ヲ適用スヘキモノトス

第二十八條

本條約ハ其實施ノ日ヨリ兩締盟國間ニ現存スル嘉永七年八月廿三日即千八百五十四年十月十四日締結ノ約定慶應二年五月十三日即千八百六十六年六月廿五日締結ノ改税約定安政五年七月十八日即千八百五十八年八月廿六日締結ノ修好通商條約及ヒ之ニ附屬スル一切ノ諸約定ニ代ハルヘキモノトス而シテ該條約及ヒ諸約定ハ右期日ヨリ總テ無効ニ歸シ隨テ大不列顛國カ日本帝國ニ於テ執行シタル領事裁判權及ヒ該權ニ屬シ又ハ其一部トシテ大不列顛國臣民カ享有セシ所ノ特典、特權及ヒ免除ハ本條約實施ノ日ヨリ別ニ通知ヲナサス全然消滅ニ歸シタルモノトス而シテ此等ノ裁判管轄權ハ本條約實施後ニ於テハ日本帝國裁判所ニ於テ之ヲ執行スヘシ

尤大不列顛國臣民カ享有セシ一切ノ權利ニシテ特ニ新條約ニ依テ廢棄セサルモノハ依然有效ナリトス

第二十一九條

本條約ハ調印批准ノ日ヨリ少クモ五箇年ノ後迄ハ實施セラレサルモノトス而シテ日本帝國政府ニ於テ本條約ヲ實施セント欲スル旨ヲ大不列顛國政府ニ通知シタル後一個年

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 211-1

ヲ經ルニ非サレハ實施セラレサルモノトス尤此通知ハ調印ノ日ヨリ四個年ヲ經タル後何時ニテモ爲スヿヲ得ヘシ又本條約ハ其實施ノ日ヨリ七十二箇年間効力ヲ有スルモノトス

兩締盟國ノ一方ハ本條約實施ノ日ヨリ六十一箇年ヲ經過シタル後ハ何時タリトモ本條約ヲ終了セント欲スル旨ヲ他ノ一方ヘ通知スルノ權利ヲ有スヘシ而シテ此通知ヲ爲シタル後十二箇月ヲ經過シタルトキ本條約ハ消滅ニ歸シタルモノトス

第二十二條

本條約ハ兩締盟國ニ於テ之ヲ批准シ其批准ハ本條約調印後〻箇月内ニ〻〻〻〻〻ニ於テ交換スヘシ右證據トシテ〻〻〻〻〻

又日本國政府ハ右換算ノ從量稅率ヲ二箇年每ニ改正スルノ權利ヲ保有ス而シテ此改正ヲ行フトキハ其都度右換算ノ前三箇月間ニ於ケル外國爲替平均相場ト其改正ノ前三箇月間ニ於ケル外國爲替平均相場ノ差額ヲ以テ改正ノ標準ト爲スヘシ但シ右ノ如キ改正ハ其公布ノ日ヨリ少クモ六箇月ヲ經過スルニ非サレハ効力ヲ有セサルモノトス

右稅目ニ揭ケサル物品ニ對シテハ前項ニ記載セシ期日ヨリ前項ニ記載セシ如ク各〻安政五年條約第二十三條及ヒ本日調印シタル條約第四條(及第十五條)ノ規定ニ準據シ日本國ニテ其時現ニ行ハルヽトコロノ普通關稅則ヲ適用スルモノトス

大不列顛國臣民カ日本國ニ輸入スル貨物及ヒ商品ニ關シ現今日本國ニ於テ實施スルトコロノ輸入稅目ハ前項ニ記載セシ各稅目實施ノ日ヨリ無効ニ歸スヘキモノトス

第二　大不列顛國政府ハ本日調印シタル通商航海條約實施ノ日ヨリ各外國人居留地ヲ全ク其所在ノ日本市區ニ編入シ而シテ日本地方組織ノ一部ヲ爲シ當該官廳ハ之ニ關シテ其地方施政上ノ責任及ヒ義務ヲ悉皆負擔シ又之ト同時ニ右外國人居留地ニ屬スル共有資金及ヒ財產ハ右日本官廳ヘ引渡スヘキコトヲ承諾ス

他外國政府モ承諾スルニ於テハ大不列顛國政府ハ左ノ取極ニ同意スヘシ

日本ニ在ル各外國人居留地ハ全ク其所在ノ日本市區ニ編入シ而シテ日本地方組織ノ一部ト爲リ當該官廳ハ之ニ關シテ其地方施政上ノ責任義務ヲ悉皆負擔シ又之ト同時ニ右外國人居留地ニ屬スル共有資金若クハ財產アルトキハ之ヲ右日本官廳ニ引渡スヘキモノトス尤前記外國人居留地ヲ日本市區ニ編入ノ場合ニハ該居留地內ニテ現ニ因テ以テ財產ヲ所持スル所ノ現在永代借地券ハ有効ノモノト確認セラルヘシ而シテ右財產ニ對シテハ借地料ヲ增加スルコトナカルヘク又此上更ニ何等ノ徵收金ヲモ取立サルヘク又何等ノ條件ヲモ附セサルヘシ

外國人居留地公共ノ目的ノ爲メニ無借料ニテ既ニ貸與シタル各地所ハ永代ニ保存セラルヘシ且ツ該地所ニシテ最初貸與シタルトキノ目的ニ使用セラルヽ限リハ總テノ租稅及ヒ徵收金ヲ免スヘシ但シ土地收用權ニハ從フヘキモノトス

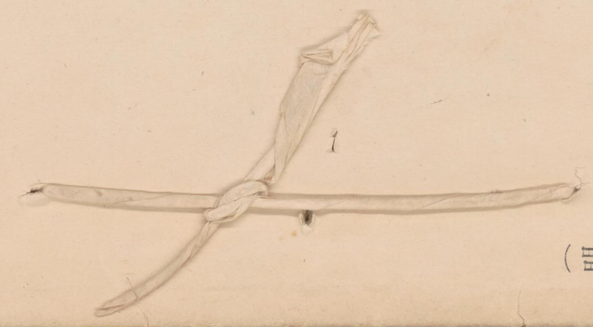
第三　本議定書ハ本日調印シタル通商航海條約ト同時ニ兩締盟國政府ニ提供スヘシ而シテ右條約批准セラルヽトキハ本議定書ニ揭載スルトコロノ諸約定モ別ニ正式ノ批准ヲ要セスシテ亦兩締盟國政府ノ可認セシモノト看做スヘキコトヲ約ス又本議定書ハ前記條約ノ無効ニ歸スルト同時ニ終了スヘキコトヲ約ス

右証據トシテヽヽヽヽヽヽ

ヽヽヽヽヽ年ヽヽヽ月ヽヽヽ日即チ西暦ヽヽヽヽヽ年ヽヽヽ月ヽヽヽ日

ヽヽヽヽヽヽ

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 211-1



（明治二十七年五月中旬印刷第　號）

伊藤博文文書

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 211-1